

1. 第三者評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2894900105
法人名	社会福祉法人あそう
事業所名	グループホーム緑風の郷木の香
所在地	兵庫県朝来市山東町一品424 (電話 079-676-3411)
評価機関名	NPO法人ナルク兵庫福祉症差センター
所在地	尼崎市南武庫荘2-27-19
訪問調査日	平成21年3月23日

【情報提供票より】 (21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	13人, 非常勤 1人, 常勤換算 13.5人

(2) 建物概要

建物構造	木道 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	17,000 円	その他の経費(月額)	28,500 円
敷金	有() 円 ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (2月1日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	5	要介護2	6		
要介護3	5	要介護4	2		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 88.6歳	最低	77歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	築瀬医療センター
---------	----------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

少し高台になっている田園風景の中にあり、見晴らしがよくゆったりとした木造平屋の施設である。特別養護老人ホームが同じ敷地内にあり、開設時の職員も半数がその施設から移動ということで、数年をかけて検討をして作りあげたとのことである。玄関を入ると木の香がして癒される空間となっている。施設内の廊下やホールなども広くゆったりとした造りになっている。太陽熱を利用した床暖房により建物全体が温かく、人と自然に配慮されたやさしい住環境になっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	今回が初めての外部評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	今回の自己評価により改善点を職員全体で共有して、今後のサービスや支援に取り組みたい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6)
	運営推進会議は、地域の区長、民生委員、老人会長、自治会長、利用者家族代表、施設の関係者をメンバーとして構成し、定期的に開催している。その内容は、職員会議やユニット会議の場で逐一報告・検討して、サービスの質の向上に取り組んでいる
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7, 8)
	苦情要望受付を設置して、その要望書を作成して家族の貴重な意見であると位置づけてサービスの見直しを迅速に行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	地域の行事によく参加して地域との交流も活発に行っている。交流を通じて地域の協力を得るようにしている。地域の交流の場として施設の一室を開放している。

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人権の尊重・ノーマライゼーションの確立・生きがい促進を基本理念に掲げ、地域や利用者の期待に応えるように取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の毎朝のミーティングで理念の確認を行い、業務の中で生じた問題や課題は基本理念に立ち返り解決している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事・芋煮会、餅つき、盆踊りなどに積極的に参加して地域との交流をはかっている。地域の協力により利用者の余暇活動や生きがいの場を作っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	現在、グループホームに外部から求められている役割や期待等について、第三者評価結果を踏まえて採用時研修や現職員の研修で業務の見直しと今後の業務の目標設定に活用していく。	○	左記の取り組みの中で今後は評価制度の活用について検討していく。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは区長、民生委員、老人会長、自治会長等で構成されており、その会議の内容は職員会議、ユニット会議で伝えサービスの向上に努めている。		
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険事業計画策定委員として参加し、行政機関等との連携をはかり、サービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態は電話や写真を送付して連絡をしている。代行購入についても毎月書面で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情要望の受付を設けるとともに、ご家族が意見を表しやすいよう関係行政機関等の紹介を行っている。苦情や要望については報告書を作成し、ご家族の貴重な意見と位置づけてサービスの見直しを迅速に行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現状のサービスが滞らないよう必要人員の確保を行っている。職員の異動や離職によって利用者へのサービスが低下しないように対応している。新規採用時は1ヶ月間ベテラン職員がついて研修をしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度による自己評価により、職員の業務目標・改善項目や希望研修などを把握して、研修を受講させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所外研修に参加することで地域の同職種との意見交換や情報共有をしている。また他施設のイベントや研修会にも積極的に参加して交流を図り、サービスの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所当初は不安を持たれることが多いので、手厚い関わりを持ち安心して過ごしてもらえるように努力されている。同級生の方々が隣どうしで入所されており、お互いの部屋の訪問をして、楽しそうに暮らしておられる様子がうかがえた。		
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	調理、洗濯、買い物、余暇活動をともに行うことで、楽しみや喜びを共感できるように努力されている。職員は人生の先輩として利用者から学ぶことも多いと感じている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活特性をよく理解してケース検討やケアプランを作成し本人の意向に沿った生活ができるように支援している。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の意向に沿ったサービスを提供し、心身の状況やニーズの変化に対応した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画作成時からサービスの変更が生じたときには本人や家族の意向を聞いて随時変更を行っている。生活の向上のため内容の深いものにするために本人や家族の意向を介護計画に反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の望む生活が実現できるように可能な限り柔軟なサービスを行っている。画一的ではなく、個別性な視点を大切に支援を行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診や体調の変化時には健康状態を主治医に伝え、必要な医療が受けられるよう援助している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	身体状態に応じて今後の生活のあり方を家族や主治医と相談して、方針を共有して支援するようにしている。他のサービスを望まれる際にはその援助も行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳が守られるよう、言葉かけには不快感を感じることをないように努めている。個人情報やプライバシーには特に慎重な対応を行っており、記録や情報の管理も適切に取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活パターンや思いが尊重されるサービスの提供を基本として、利用者の望む生活が送れるように支援している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を聞き、個人の好みに合った栄養バランスの良い食事の提供に心がけている。職員と共に調理や盛り付け、片づけを行い楽しみのある食生活にも配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴が可能で利用者の希望に沿った入浴の支援がきている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	楽しみのある生活を送ることができるように生活歴や個々の趣味や機能に合った活動を支援している。はす祭り、藤祭り、しょうぶ祭りやホテル狩りなど季節の行事に参加し利用者の楽しそうな写真が多く掲げてあった。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物など希望に沿った外出の支援を行い、地域の行事にも多く参加して外出の機会を多く持てるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の行動が制限されることのないように「鍵をかけないケア」の方針を職員が共有して、夜勤者が一人になるとき以外は施錠をしていない。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防機器の点検や緊急時への対応体制を整備し常に災害への備えを計っている。年2回の避難訓練を行い、緊急時の備えをしている。地域の消防団との合同訓練を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や摂取状態、体重を測定把握し、一人ひとりに適した食事内容や調理法を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は木の香りが漂い落ち着いた雰囲気、光も自然な採光が取り入れられている設計となっている。建物周辺はゆったりとした空間となっていて、木や花が植えられていて、季節感のする場となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使い慣れたに馴染みの家具や仏壇が置かれていて、落ち着いた住環境となっている。		

※ は、重点項目。